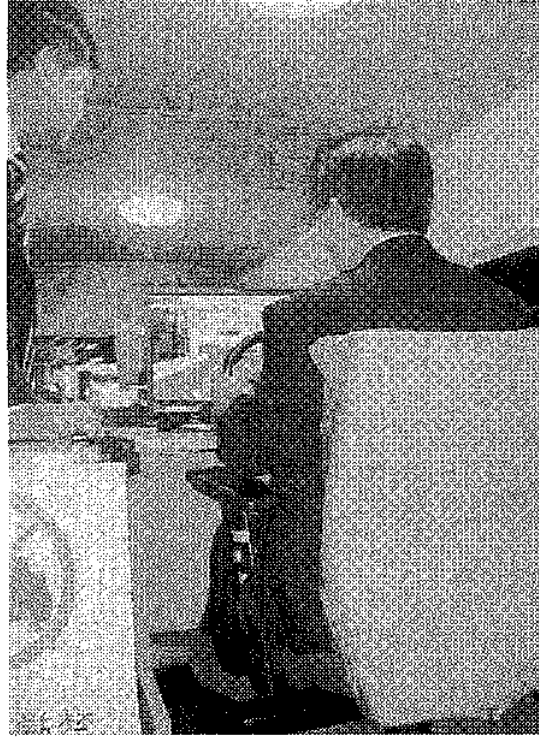


# ナスバネット稼働

広域運送事業協同組合（樋口恵一理事長）は、全国で初めて「ナスバネット搭載巡回車両」を稼働させる。レントゲン検査車のように組合員事業所を巡回し、トラックを休車せずに適性診断の受診が可能。三月二十三日の車両披露会では、デモンストレーションが行われた。

広運協



性診断、二十四時間・三  
百六十五日、自社の営業  
所で効率よく受診できる  
よう、ナスバネット搭載  
巡回車両を考案。国土交  
通省のトラック事業安全  
対策リーディングモデル  
創出事業に認定された。  
ナスバネット搭載巡回  
車両は、トヨタハイエー

効率的な受診が可能に

スにインターネット接続環境を整備。デスクトップ用パソコンとプリンターを二台ずつ設置した。利用料金は一日一万円を予定。組合員全員が利用できるようにするため、使用回数でなく、期間による料金を設定する。

組合員が予約状況を確認し、希望日を連絡。事務局でスケジュールを調整し、受診する事業所が車両を受け取りに行く。都合のいい時間帯に受診し、終了後は保管場所または次の使用者に引き渡す。なお、巡回中に機器

が故障した場合、協組が加入した保険でカバーできる。事務所の試算では、適性診断を受診するため、自社車両一両を一日休車し、備車を使った場合、受診交通費、ドライバー日当、備車使用料で五万二千元（受診料は含まず）掛かる。一方、休車せずにナスバネット搭載巡回車両を利用すると一百万円で、四万二千円の支出を抑えられる。樋口理事長は「ナスバネットを協組事務局に置いても、協組に出向く必要がある。ナスバネット搭載巡回車両を導入すれば、事務局が空いている時間（午前九時～午後五時）の制約を受けず、都合のいい期間、日時に診断を受けられる」と説明。中小トラック事業者の安全研修の共同化を推進する立場から「適性診断の受診漏れを防ぎたい。今後、協組でドライバーの受診履歴を管理することも検討する。法令順守は協組のモットーで、年間百五十日の稼働を目標としたい」としている。（石井 麻里）

## 搭載車で事業所巡回

## ユニークな安全対策